

農家民宿「いちょうの樹」の思い

高知県ゆすはら梼原町 上田知子

私は、農家に嫁いで27年になります。家族は主人、主人の父母、長男、次男、長女の7人家族です。農産物自由化によって価格が低迷し、経営の見直しで平成12年4月に農家民宿「いちょうの樹」を開業しました。

梼原町は愛媛との県境にあり、町の95%が森林であるため耕地面積も少なく、農業経営は厳しいものがあります。かつては、シイタケ、養蚕、森林経営で生活ができたようですが、現在は新たな品目を考えることが大事で、我が家はシイタケ、ぜんまい、夏場の雨よけ栽培でこなすを作っています。それでも自由化の波には勝てず、何とか土地を荒らさず、作っている野菜に付加価値をつけることで収入を得るにはどうするかということをも主人と話してきました。そのころ（10年位前）グリーンツーリズムの話を聞きすぐに視察に行ったところ思いがけない感動をうけたのです。ちょうど町の交流事業で民泊を経験していたので「自分たちにも出来るかもしれない」と思ったことがきっかけです。

しかし、県内で初めてということでもどこかで情報を得たくても、どうやったらいいのかがまったくわからず、県の普及センターの方が一緒に行動してくれました。そうでなかったらここまで至ってなかったのかもしれない。いろんな法律をクリアするためにはお金もかかり資金繰りの方法もわからず、一度はあきらめもしていましたが先を考えると前に進むしかないのかと開業を決心しました。

家族の反対もなく、お父さんは大病の後でのいろんな方との出会いで大変元気になりました。畑野菜作りはお母さん、わらじづくりや魚釣りはお父さん、家の見繕いは主人、娘

と私がお客さんの食事や宿泊準備などと役割分担をしています。

我が家の民宿は「田舎のない人の田舎になりたい」という思いでやっています。緑の山々や川の水のきれいさ、冷たさを実際に感じ触れてみることで安らぎや癒しを感じてもらいたいと思っています。今まで食べられなかった野菜を食べだしたとか、自分が収穫した喜びをしっかりと感じ取ったとか、その地域で暮らす人たちとの交流が楽しかったといわれます。

梼原は環境の町としていろんな取り組みをしているのでそれと上手くリンクし、宿泊をしてもらい、町にお金を落としてもらえたら少しでも活性化の糸口が見つかりそうだと思います。平成15年「グリーンツーリズム梼原」を立ち上げました。交流人口を増やす取り組みとして、現在、各地域で自分たちの地域を発信する機運が出てきているのですが、窓口がないのが問題です。だから、個々に取り組んで成果を出す必要があると思っています。

これからは出荷するだけの農家でなく、安心して食べられる食材の料理方法や四季の野菜のおいしさを伝えたり、また、地産地消の実践に努めていきたいと思っています。そして、昨年からは四万十川へ来る人を自分の地域だけでなく、高知全体で受け入れるため「こうち体験ツーリズム」を設立しました。このほか、4年前には太郎川公園に移築保存した農家レストラン「くさぶき」を開業し、情報発信の場所として利用しています。

小さいことだけど、地域の後継者づくりのための生き残り策を考えています。

（うえた ともこ）